

## 申し入れ書 ブルーインパルスの展示飛行をやめてください

### 小牧基地指令・鮫島建一様および隊員の皆様へ

2月18日アメリカとロシアの外相による会談がサウジアラビアでおこなわれました。ウクライナの代表は参加しませんでした。その後トランプ大統領は「ウクライナが始めた戦争」と言いました。国連総会決議2022年3月2日は「ウクライナに対する侵攻」としていました。これまで米を始め西側諸国は「法の支配」を言い、「一方的な力による現状変更は許さない」としてきていました。にもかかわらず決議も議論の積み重ねも無視して、そして当事者のウクライナも無視しての「決定」。「停戦」そのものは歓迎されるとしても、ウクライナにしてみればはしごをはずされたということでしょう。停戦理由はトランプの言にしたがえば「アメリカはウクライナで損害をこうむった」ということになります。政策変更には検証が必要なはずで。

ひるがえって、2月7日の日米首脳会談。「自由でひらかれたインド太平洋」「法の支配」などの言葉がおどります。しかしそんなものは一夜にして反故にされるかも知れません。米による尖閣諸島への安保条約5条適用などの言質は「米国になんの得がある」としてひっくり返されるかも知れない。アメリカと一緒に拳をあげていたつもりがはしごを外される事になるかもしれない。自衛隊単独で中国と戦争しますか？ 合理的にみれば、米中が戦争することなどありえないのです。日中共同声明、日中平和友好条約に立ち返り平和的に中国と付き合うほうが、リスクもなく、現実的です。

現在、日本はこの虚構の「台湾有事」を御旗に軍拡を行い、国内では重要土地規制法、経済安保などの法整備や民間空港・港湾の軍事利用、大規模な軍事演習など、私達が「社会まるごと戦時体制」とよぶような体制作りがすすめられています。そして虚構の「有事」を背景に社会の軍国化がすすめられています。沖縄石垣島で陸自隊員が祭りのなかで「闘魂」「一撃必墜」などの旗をかかげて迷彩服でパレードを行った(2024・11・4)ことが報じられています。これは強く非難されるべきです。地域の中へ強引に軍事を割り込ませています。トランプの言葉にうかがえる軽さは「台湾有事」の現実味の薄さにつながりました。「台湾有事」本当ですか、と問いたくなります。今を機に政治も社会も一度立ち止まる必要があるのではないのでしょうか。基地司令、自衛隊もそうです。隊員の皆さんは何のために尊い命をかけるのでしょうか。3月2日のオープンベースでは住民が恐怖を感じるようなブルーインパルスの展示飛行は取りやめてください。住民の声を聞く姿勢をもってください。

2025年2月22日

不戦へのネットワーク 名古屋市中村区那古野1の44の17